

ほとんど知らない オーケストラの話



(第10回)

時間厳守は鉄の掟

東京フィルハーモニー交響楽団
専務理事・楽団長
石丸 恭一

日本の鉄道はさておき、芸能界とも言えなくはないオーケストラにおいて演奏開始時間を守るといふ事は他では考えられないほど重要な事です。特に一人一人が違った音を担当している管楽器においては一人欠けてもその曲を演奏する事が出来ません。例えばピアノの鍵盤の一つが欠けた状態になるからです。演奏会が出来なくなるとそれに関する全ての仕事に関わった人の行為が全て無駄になり、金銭的にも計り知れない被害を及ぼすのは勿論、演奏会中止と言う取り返しのつかない事になってしまいます。演奏で上手に出来なかったとか、その曲に一か所しかない音を落とすなどのミスをしたりなどという事に比べ、それ以前の問題として重要度ははるかに高いのです。練習の仕組みもそれに対応しており本公演の直前にゲネラル・ブローベ、通称ゲネプロという総練習を設けています。これは本番の遅刻を防ぐ意味も兼ねている訳です。

ある公演に向かう途中のトランペット奏者が事故に合い足を骨折して救急車で運ばれました。彼はギブスを巻くやタクシーで会場に走り込みそのまま舞台に乗りました（オーケストラは舞台に立つとは言わず舞台に乗ると言います）。また有る

時、甲府市の公演の翌日に焼津市での公演がありました。旅程では甲府を終わるとその日の内に焼津へ移動だったのですが数名のトロンボーン奏者が甲府の温泉に泊まってしまいました。運が悪くその夜、外れる予測であった台風が直撃し身延線と共に並行するたった一本の国道も崖崩れで普通になってしまったのです。翌日、真っ青になったトロンボーン隊の決死の突破行が始まります。通行止めになった国道まで行き崖崩れ（かなりの距離があった）の向こう側まで焼津のタクシーに来てもらい雨の中埋まった土砂の上を歩いて乗り越えたのです。焼津で本番前になっても来ない奏者を心配していた楽員の前に楽器を担いで泥だらけになったトロンボーンが駆け込んで来ました。焼津の公演は10分遅れで何事も無かったかの様に始まったのでした。公演時間は10分遅れまでは何とかお客様にとっての許容範囲なのです。お客様には全く見えない事なのですが演奏者として一人前になるにはまず絶対に遅刻をしないというプレッシャーを克服し当然の事として身に着ける事は世界のオーケストラに共通した全てに優先する「鉄の掟」なのです。